

インターバンクの声（2015 年 5 月 22 日）

先週末には 1.15 ドルも超えそうだと思えるほど勢いのある戻りを見せていたユーロだが、米経済が 1－3 月期の低迷から回復するだろうとの見方の広がりやギリシャ債務問題懸念が再び高まり始めたことで、今週半ばには 1.10 ドル台に逆戻りしてしまった。昨晚はユーロ圏やフランスの製造業 PMI 指標が改善を示し、ユーロ圏の国債利回りが上昇傾向となったこともあり、ユーロも久しぶりに 1.12 ドル近くまでの回復を見せた。ただ、ドイツの製造業、非製造業 PMI が市場の予想を下回ったことが上昇の勢いを削いだり、欧州中央銀行（ECB）当局者からユーロ圏金利の上昇傾向を牽制するような発言もあり、ニューヨーク市場オープンに向けては 1.11 ドル方向に戻されてしまった。ギリシャの債務問題の行方も含め、ユーロ圏経済の先行き動向も気になるが、6 月の利上げの可能性は大幅に低下したとは言え、9 月や年内の米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げの判断に焦点が集まれば、再度ユーロのパリティー（1 ユーロ＝1 ドル）回帰か否かが相場の注目の一つになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。